

EXCELLENT & DYNAMIC

2020年度 決算概要

取締役専務執行役員
管理本部長
豊原 浩



金額は億円未満を四捨五入しております。
数値はIFRS基準にて表示しております。

EXEDY
株式会社エクセディ

2021/6/3 株式会社エクセディ 管理本部

1/19

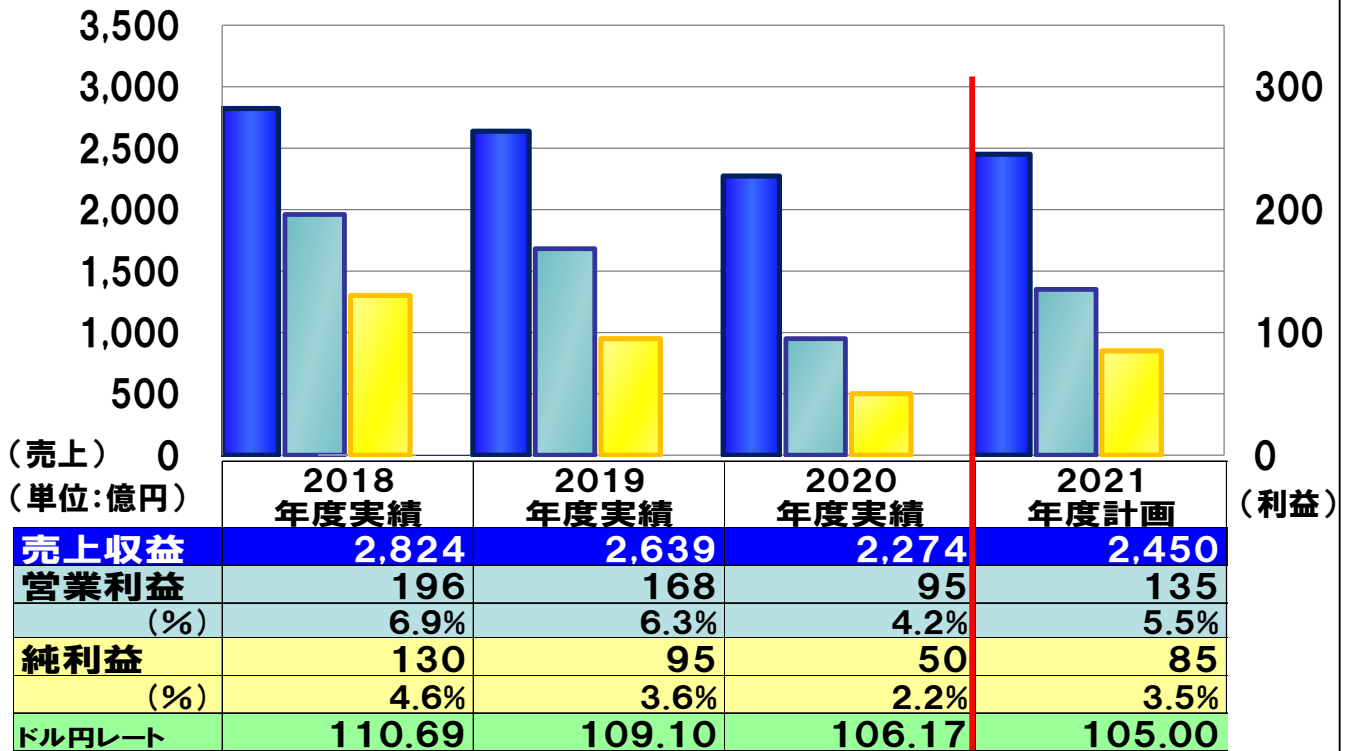
2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の決算概要、および2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の見込についてご説明申し上げます。



営業成績



■ 売上収益 ■ 営業利益 ■ 純利益



2021/6/3 株式会社エクセディ 管理本部

2/19

【営業成績】

連結売上収益、営業利益、純利益の推移でございます。

2020年度はコロナウィルス感染症の世界的なまん延による影響を受け、売上収益は前連結会計年度比13.8%（365億円）減の2,274億円となりました。

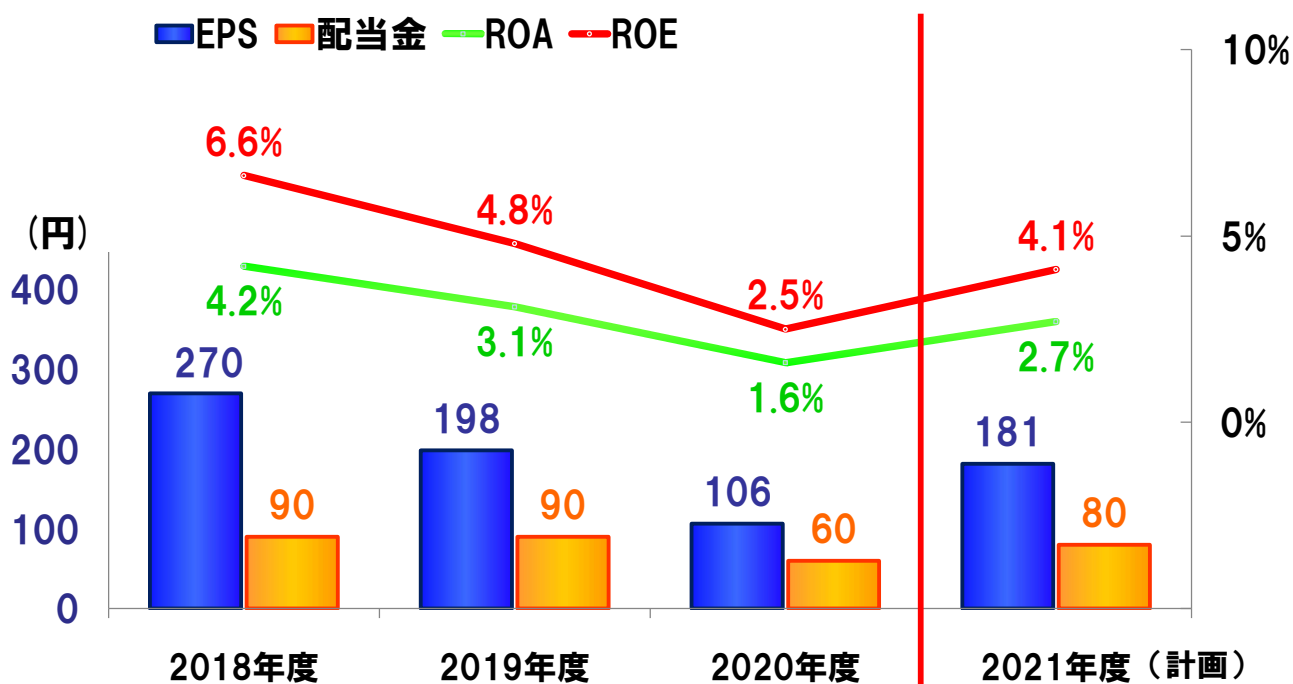
利益面では、売上収益の減少に加え、メキシコ子会社における生産設備の減損損失47億円を計上したこともあり、営業利益は前連結会計年度比43.2%減の95億円、純利益（親会社の所有者に帰属する部分）は同47.5%減の50億円となりました。

2021年度においては、コロナウィルスの影響からは幾分回復が見られるものの、半導体不足による完成車メーカー各社の生産計画への影響が不透明であることもあり、売上収益は2020年度比7.7%（176億円）増の2,450億円、営業利益、純利益（親会社所有者に帰属する部分）についてはそれぞれ135億円、85億円を予定しております。

2019年度対2020年度、2020年度対2021年度の利益増減要因については後ほど説明させていただきます。



指標推移



【指標推移】

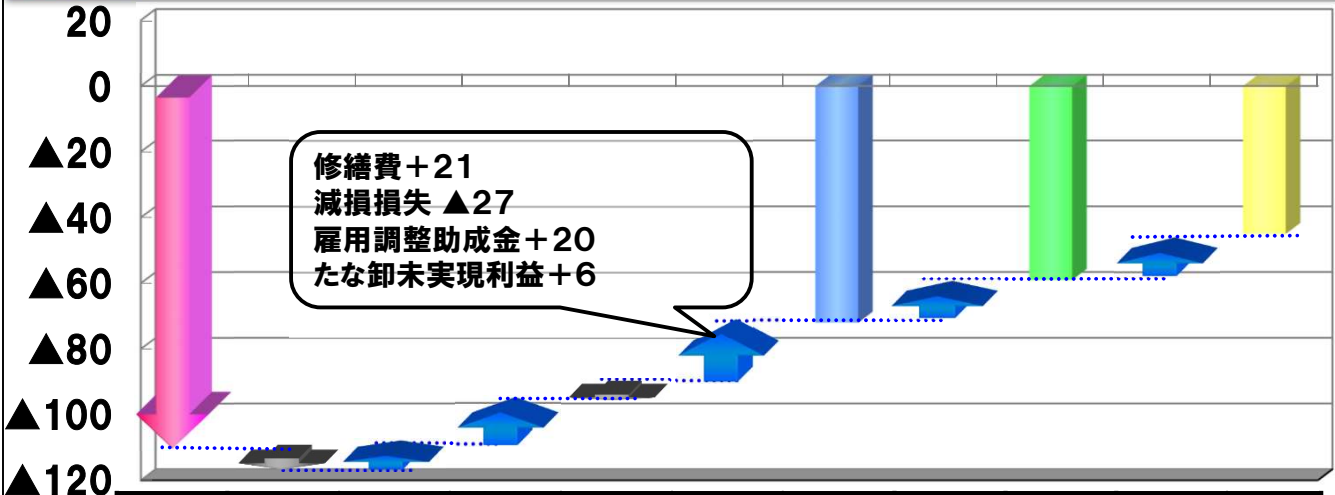
ROA、ROE及び1株当たり利益（EPS）、配当金の推移でございます。

2020年度は減益のため配当を1株当たり年間60円といたしました。

2021年度は利益の回復に伴い、1株当たり年間80円に増額させていただく予定でございます。



利益増減要因 (20年度実績 vs. 19年度実績)



修繕費+21
減損損失 ▲27
雇用調整助成金+20
たな卸未実現利益+6

▲110	▲4	+6	+15	▲1	+22	▲72	+13	▲59	+14	▲45
売上変動の影響	為替変動影響	材料外注費	労務人件費	償却費	その他	営業利益	金融その他	税引前利益	法人税等 非支配株主持分	当期純利益

【利益増減要因 (20年度実績vs19年度実績)】

2020年度対2019年度の利益増減要因でございます。

減益の最大の要因は売上収益の減少で、2019年度比で売上収益が365億円減少したことにより、110億円の減益要因となりました。

この影響を最小化すべく、あらゆる分野において効率化に努めました。

生産数量の減少に対応して工場・事務所の稼働を停止し、休業補償を支払いましたが、その一方で生産の効率化に取り組んだ結果がボリュームが回復した年度後半で出てきたことで、労務人件費では15億円の挽回に成功しました。

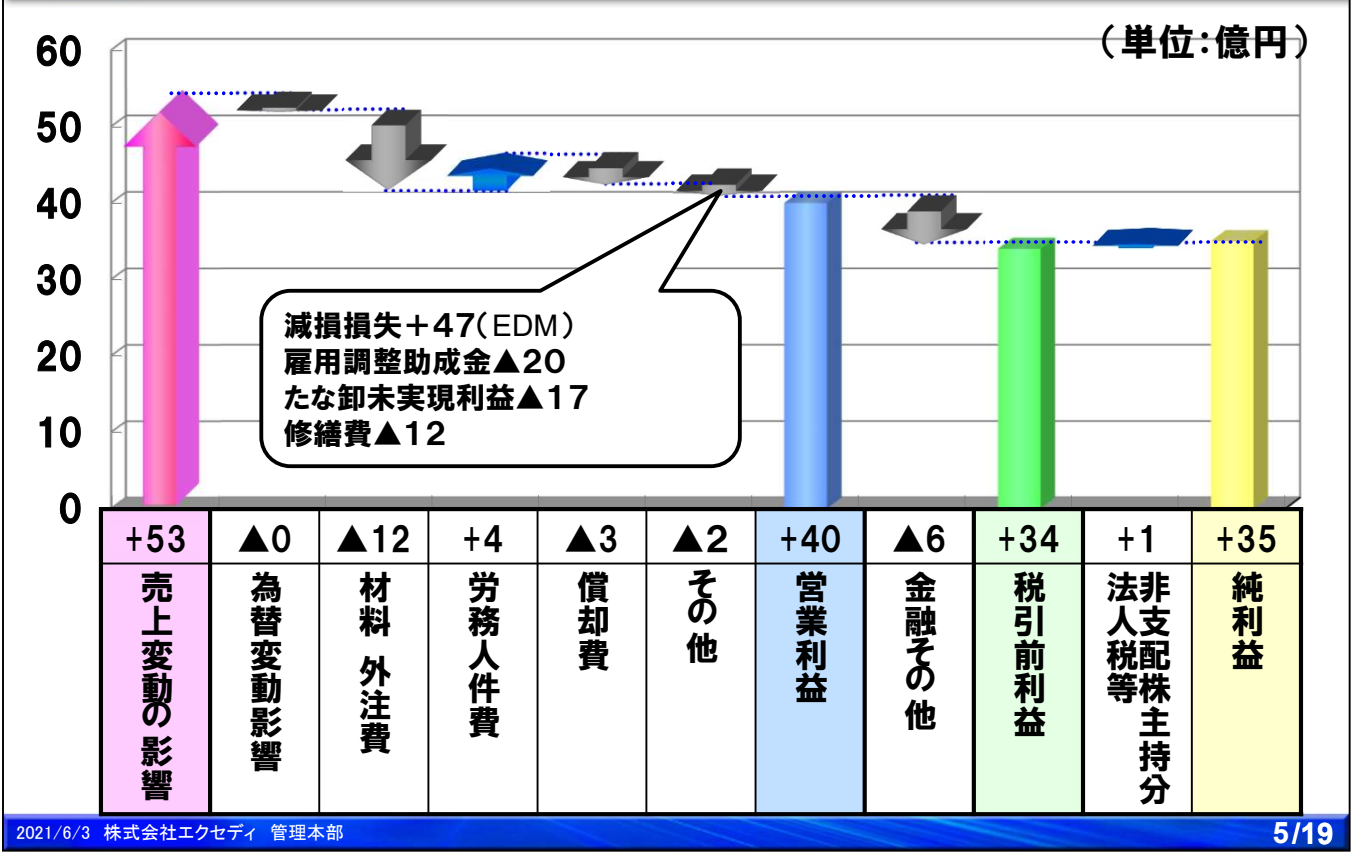
また、休業補償を支払った分雇用調整助成金を申請・受給することで20億円の収益を確保しました。

さらに、補修用部品の販売子会社において、売上の減少に対応して在庫削減に努めたことで、子会社の在庫金額に含まれる親会社の利益（未実現利益）の消去金額の減少が、利益の増加に6億円寄与しました。

その他、修繕費をはじめとするあらゆる経費を削減し挽回に努めましたが、年度末にメキシコ子会社において生産設備の減損損失47億円を計上したこともあり、営業利益は2019年度比72億円減少し、95億円となりました。



利益増減要因 (21年度計画 vs. 20年度実績)



【利益増減要因 (21年度計画vs20年度実績)】

2021年度計画対2020年度実績の利益増減要因でございます。

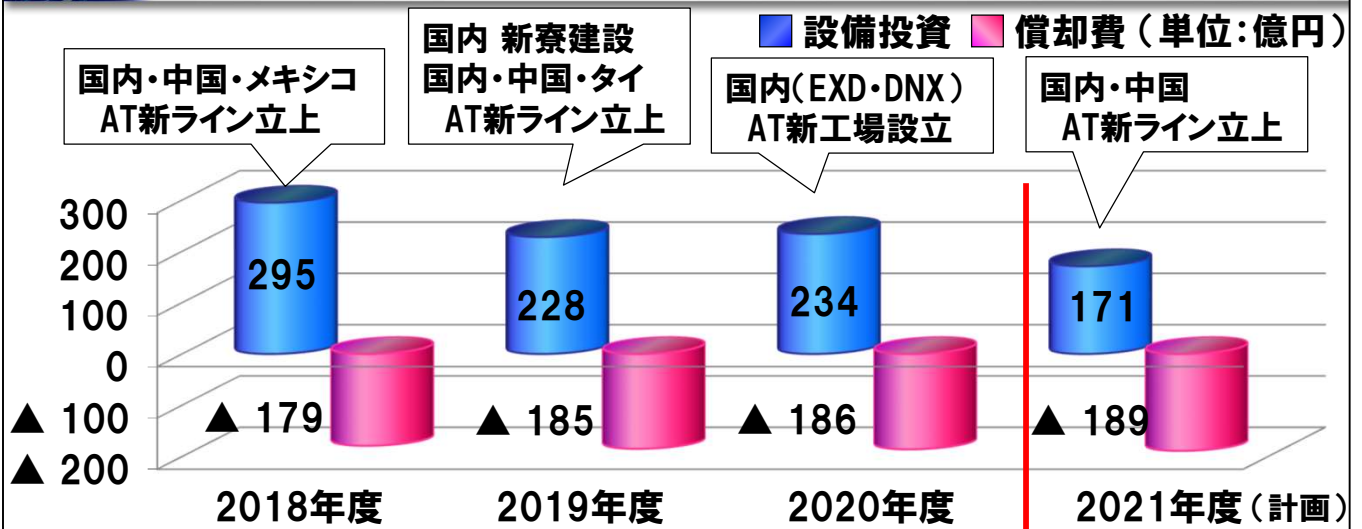
コロナウィルス感染症の影響からの回復による売上収益の増加176億円が、営業利益を53億円押し上げます。

また、2020年度で計上したメキシコ子会社の減損損失47億円がなくなることも利益を増加させる要因となります。

一方で、素材（鋼材・樹脂など）の市況の高騰により材料費・外注費の悪化が見込まれることや、2020年度に受給した雇用調整助成金が2021年度にはなくなること、補修用品の販売子会社における在庫が販売の回復に伴って増加に転じることから、未実現利益の消去が利益を減らす方向に効いてくること、2020年度にかなり絞り込んだ諸経費の内、必要不可欠なものについては2021年度に出費が必要になることなどが減益要因となり、これらをネットした営業利益の増加は40億円、2021年度の営業利益は135億円を計画しております。



設備投資



	投資	償却	投資	償却	投資	償却	投資	償却
AT	256	126	180	133	166	137	147	139
MT	29	33	35	34	61	32	18	33
その他	9	19	13	18	7	17	6	17

【設備投資】

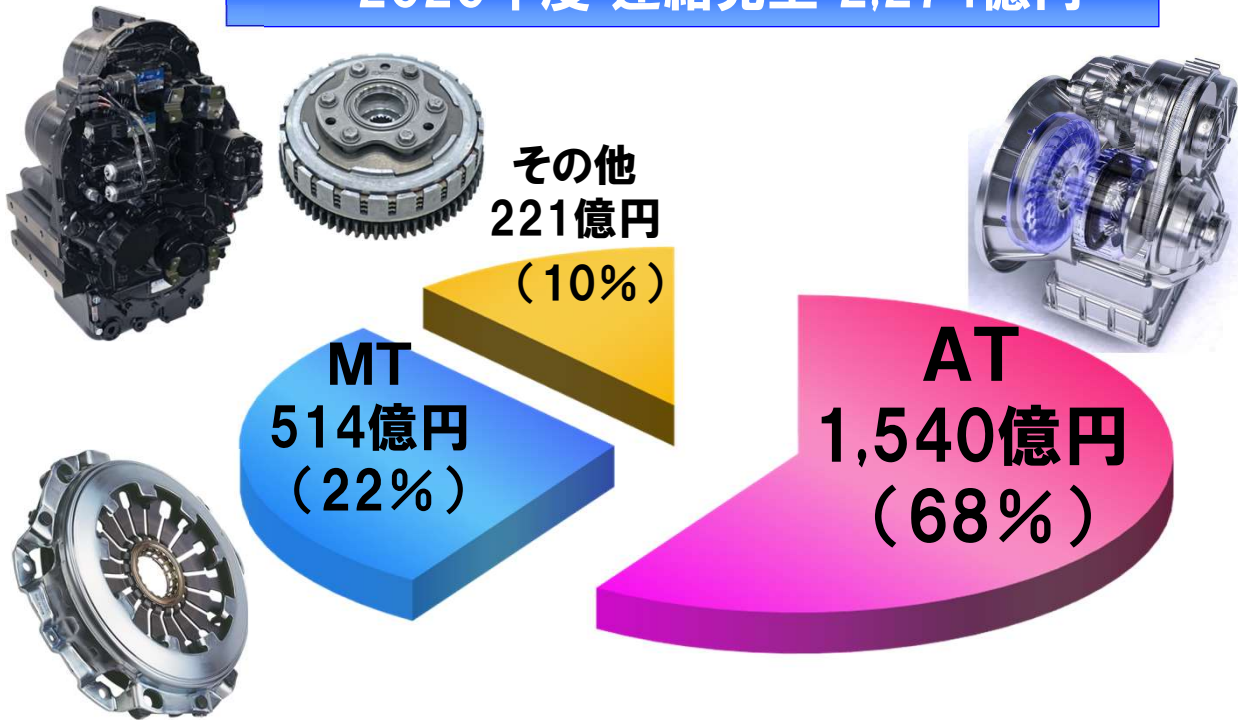
設備投資と減価償却費の金額推移でございます。

2020年度においては、コロナウィルスのまん延による経済活動の停滞はありましたが、弊社（EXD）・ダイナックス（DNX）等で新工場を建設したことなどから234億円の設備投資を実施し、減価償却費は186億円となりました。

2021年度においては、一部新規ビジネス向の生産準備投資があるものの、設備投資の合計金額は171億円と、減価償却費の見込額189億円以内となる見込みでございます。



2020年度 連結売上 2,274億円



【事業領域】

ここから、弊社グループの事業セグメントについて紹介させていただきます。



AT

2020年度 連結売上

1,540億円 (68%)



低速ロックアップ
トルクコンバータ



プラグインハイブリッド
車用ダンパー



湿式クラッチディスク



クラッチアッシー

【AT事業製品】

弊社の事業セグメントの中で売上収益が一番大きいのはAT（自動変速装置関連事業）でございます。

2020年度の売上収益は1,540億円、連結売上収益総額に占める構成比は68%です。

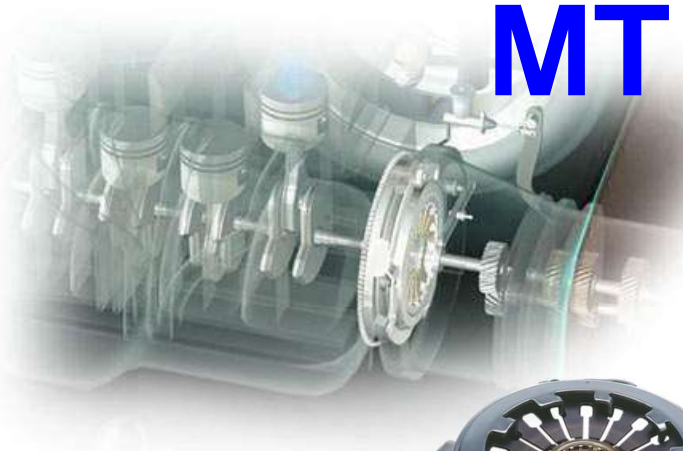
AT事業の製品は4輪のAT車で使用されるトルクコンバータ、ダンパー、クラッチ部品などでございます。



MT

2020年度 連結売上

514億円 (22%)



2マスフライホイール



ワイドアングルダンパー



クラッチカバー
(プルタイプ)



カーボンクラッチ

【MT事業製品】

もう一つの事業セグメントはMT（手動変速装置関連事業）でございます。
2020年度の売上収益は514億円、連結売上収益総額に占める構成比は22%です。

MT事業の製品は、4輪のMT車で使用されるクラッチでございます。



その他

2020年度 連結売上

221億円（10%）



2輪車用クラッチ

ラフテレーンクレーン用
トランスミッション

建設機械・産業車両用製品



トルクコンバータ

油圧クラッチ

【その他事業製品】

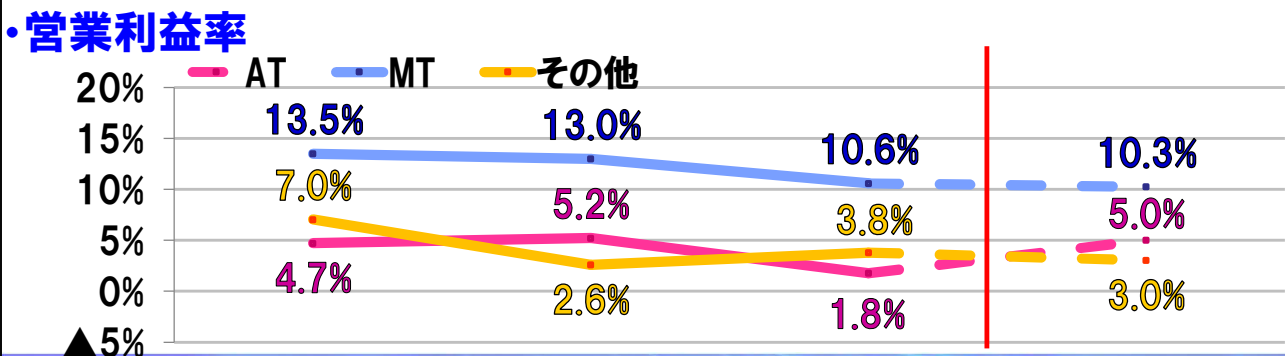
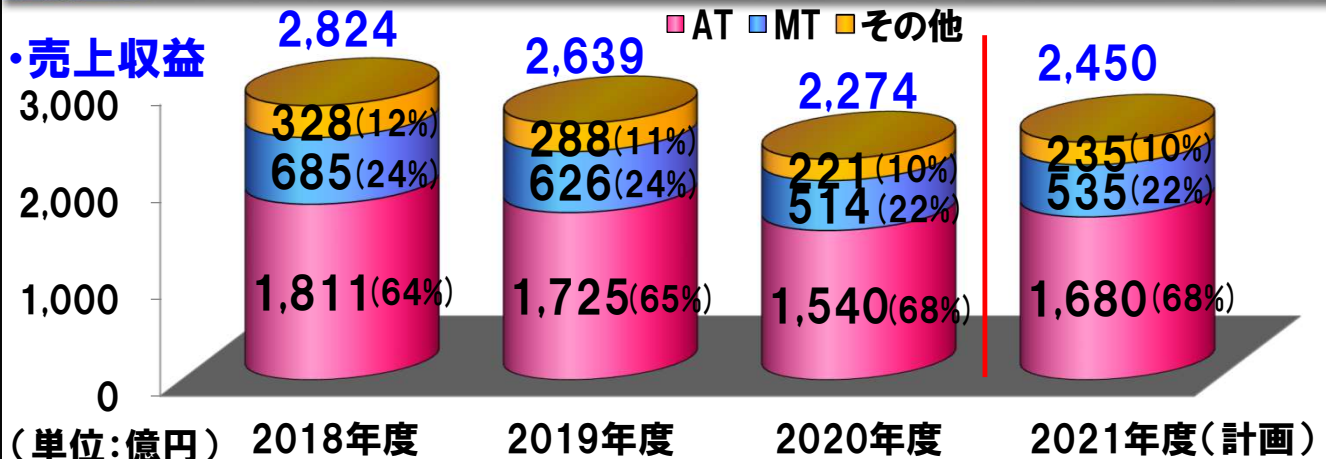
AT事業にもMT事業にも属さない事業をその他事業としております。

2020年度の売上収益は221億円、連結売上収益総額に占める構成比は10%です。

その他事業の製品は、建設用・産業用機械向けの駆動伝導装置や2輪車用クラッチ、運送業などを含んでおります。



事業別 損益推移



【事業別 損益推移】

事業セグメント別の売上高と営業利益率の推移でございます。

2020年度は全ての事業セグメントにおいて減収となりました。

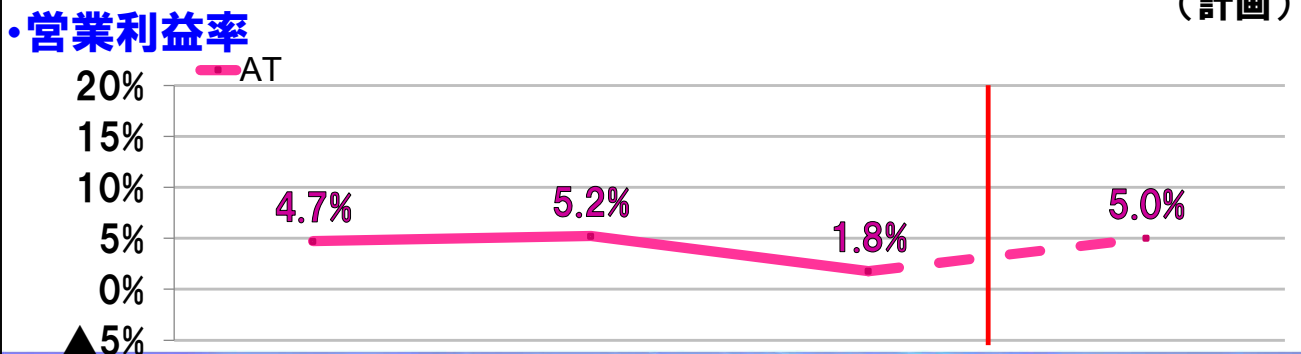
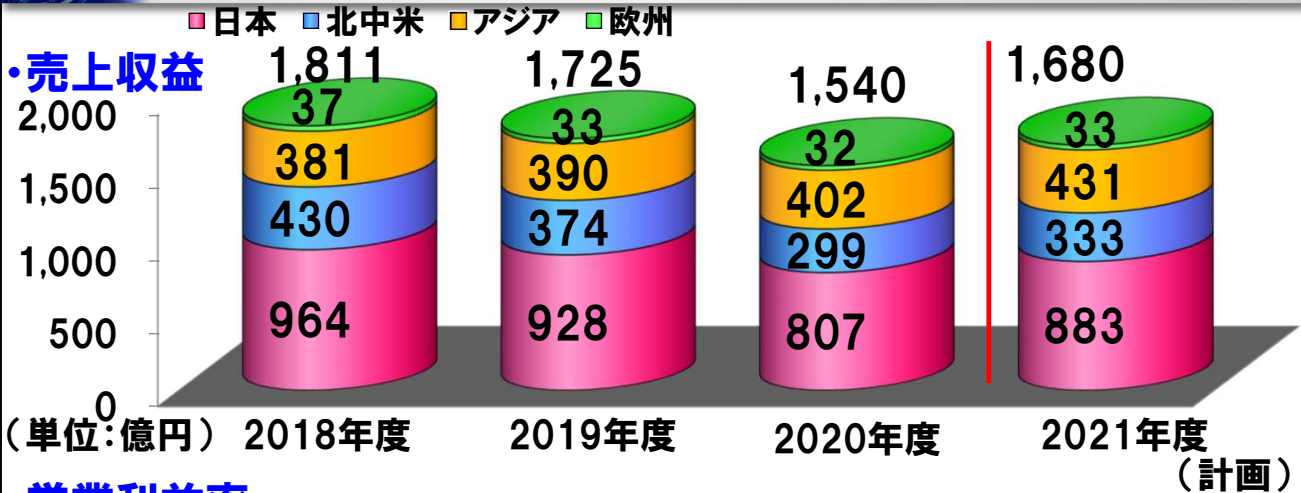
減収の影響のほか、AT事業においてはメキシコ子会社での減損損失もあり、AT事業、MT事業では利益率が低下しました。一方、その他事業においては、減収による影響はあるものの、前期にインド子会社で計上した減損損失がなくなったこともあり、営業利益率は上昇しました。

2021年度においては、各事業セグメントとも2020年度からは増収となります。

それぞれの事業セグメントの2021年度の売上収益、利益率の考え方については、後ほどそれぞれのセグメントのページで説明させていただきます。



売上収益変動内訳 AT



【売上収益変動内訳 AT】

AT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものでございます。

2020年度においては、アジアを除く地域ではコロナウィルス感染症の影響もあり減収となりました。

一方、アジアに関しては、中国がコロナウィルス感染症の影響をほとんど受けなかったことから増収となりました。

2021年度においては、アジア以外の地域はコロナウィルス感染症の影響からの回復により、アジアにおいては新規製品の販売開始などにより、すべての地域で増収を見込んでおります。

なお、別資料で弊社社長の久川が説明した台数見込ではもう少し売上が増えそうに思えるかと存じますが、上記売上収益の見込は、その台数前提に対して昨今の半導体不足による完成車メーカーの生産計画へのマイナス影響を想定し、差し引いた金額としております。

利益面では、売上収益の増加に加え、2020年度にメキシコ子会社で計上した減損損失がなくなることから、素材価格の高騰といったネガティブ要因がある中でも営業利益率は5.0%まで回復するものと見込んでおります。

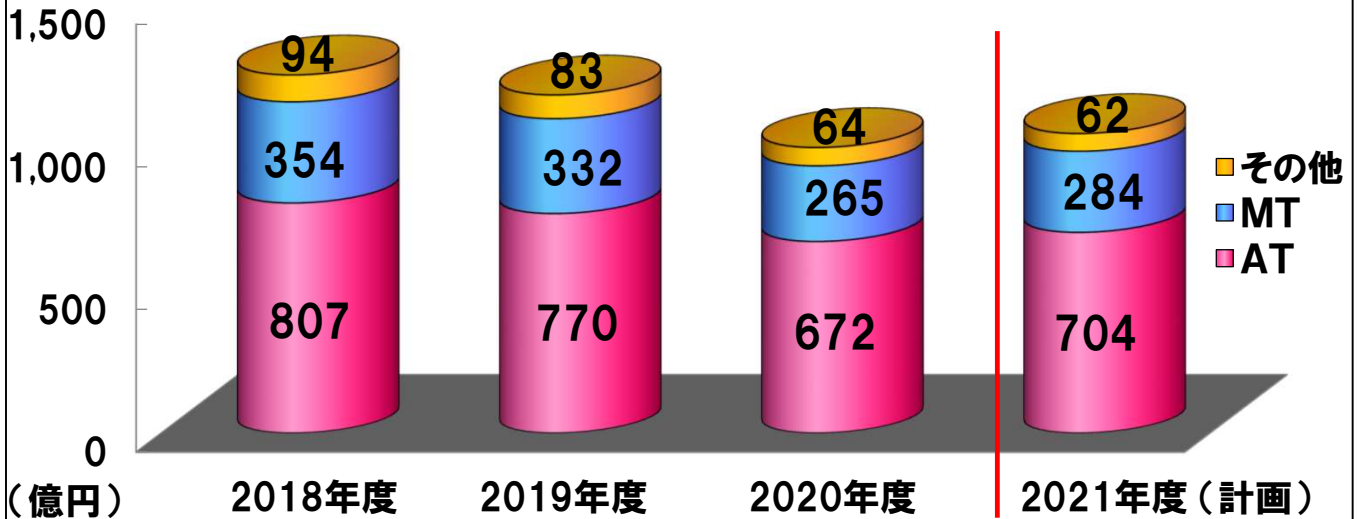


エクセディ (EXD)



(単位:億円)

期 間	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 計画
売上収益	1,255	1,185	1,001	1,050
営業利益 (率)	54 4.3%	51 4.3%	27 2.7%	30 2.9%
税引前利益 (率)	107 8.6%	92 7.8%	62 6.2%	55 5.2%
当期利益 (率)	90 7.2%	80 6.7%	52 5.2%	45 4.3%



【エクセディ (EXD)】

ここからしばらく、AT事業セグメントの主要プレイヤーである各社の業績推移をご覧ください。

まず、弊社エクセディでございます。

2020年度にコロナ影響によって落ち込んだ売上収益が2021年度にはある程度回復しますが、それでも2019年度レベルにはまだ届かないと見込んでおります。

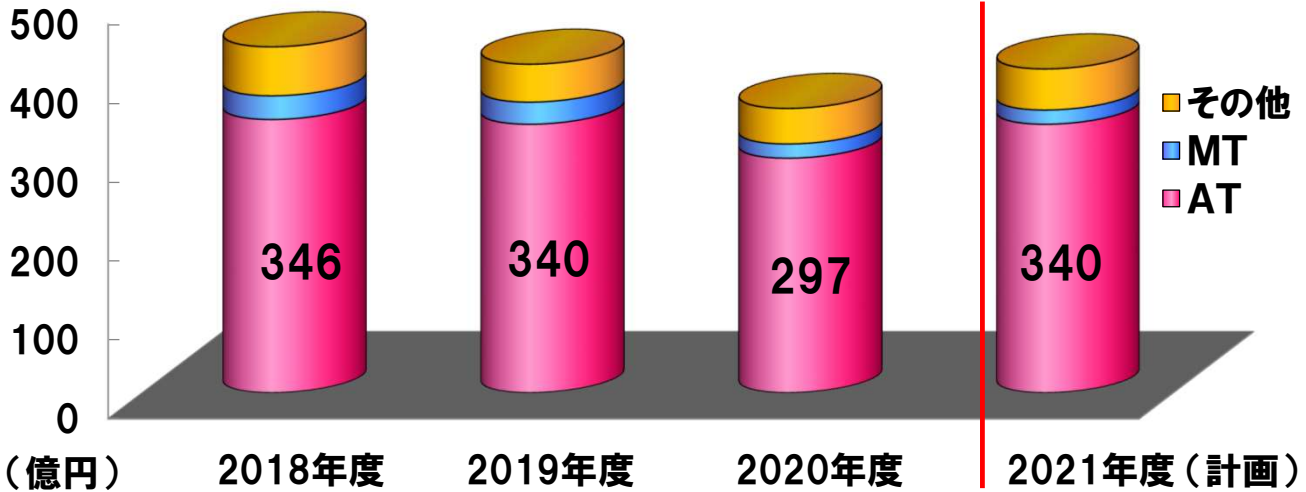


ダイナックス (DNX)



(単位:億円)

期 間	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 計 画
売上収益	439	417	360	410
営業利益(率)	54 12.2%	34 8.2%	26 7.2%	28 6.8%
純利益(率)	43 9.8%	30 7.1%	19 5.3%	23 5.6%



2021/6/3 株式会社エクセディ 管理本部

14/19

【ダイナックス (DNX)】

弊社グループ最大の子会社、北海道にあるダイナックスでございます。

2020年度はコロナウィルス感染症の影響で売上が減少しましたが、2021年度には2019年度レベルまで売上収益が回復すると見込んでおります。

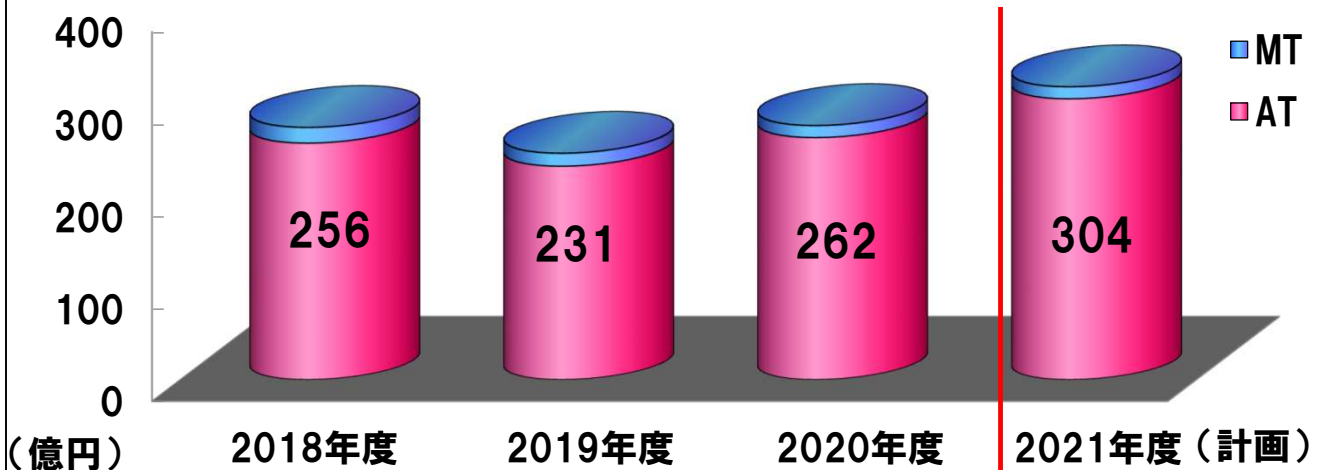


エクセディ ダイナックス 上海 (EDS)



(円貨:億円 外貨:百万元)

期 間	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 計画
売上収益(外貨)	273 (1,654)	246 (1,568)	276 (1,764)	316 (2,019)
営業利益(外貨)	29 (176)	17 (111)	21 (136)	20 (128)
純利益(外貨)	18 (112)	9 (56)	13 (83)	11 (72)



【エクセディダイナックス上海 (EDS)】

中国、上海に所在するエクセディダイナックス上海でございます。

2019年度の第4四半期にコロナウィルス感染症の影響が出ましたが、2020年度には完全に回復し、売上収益は増加しました。

2021年度にも引き続き成長を続けると見込んでおります。

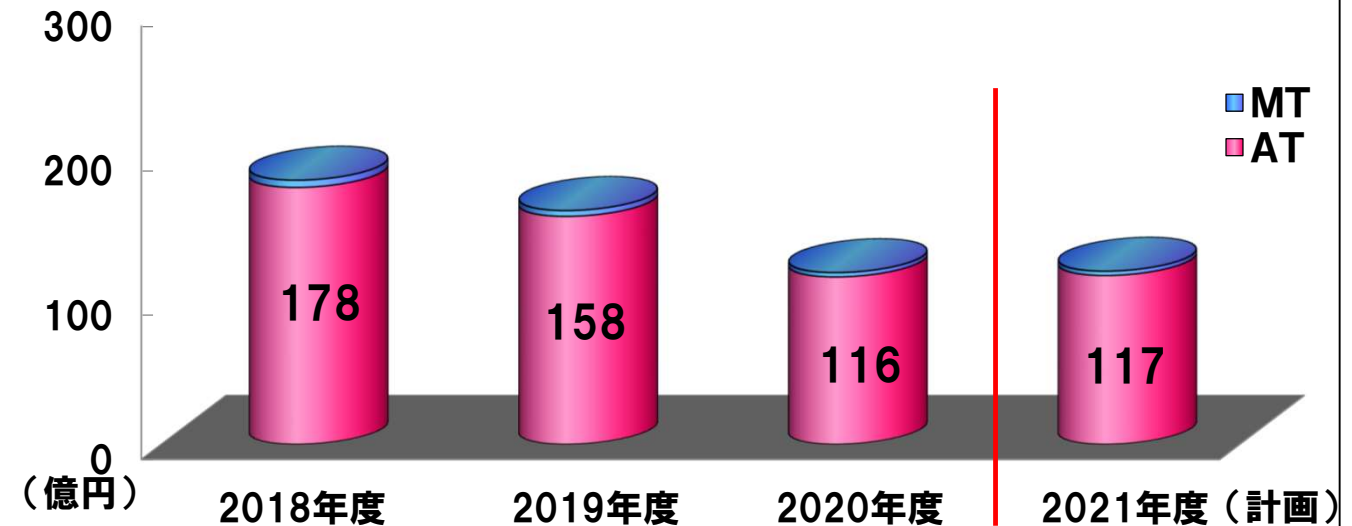


エクセディ ダイナックス メキシコ (EDM)



(円貨:億円 外貨:百万USD)

期 間	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 計画
売上収益 (外貨)	183 (165)	162 (149)	118 (112)	120 (114)
営業利益 (外貨)	13 (12)	9 (8)	▲44 (▲42)	▲2 (▲2)
純利益 (外貨)	10 (9)	3 (3)	▲31 (▲30)	▲1 (▲1)



2021/6/3 株式会社エクセディ 管理本部

16/19

【エクセディダイナックスメキシコ (EDM)】

メキシコ、アグアスカリエンテスにあるエクセディダイナックスメキシコです。

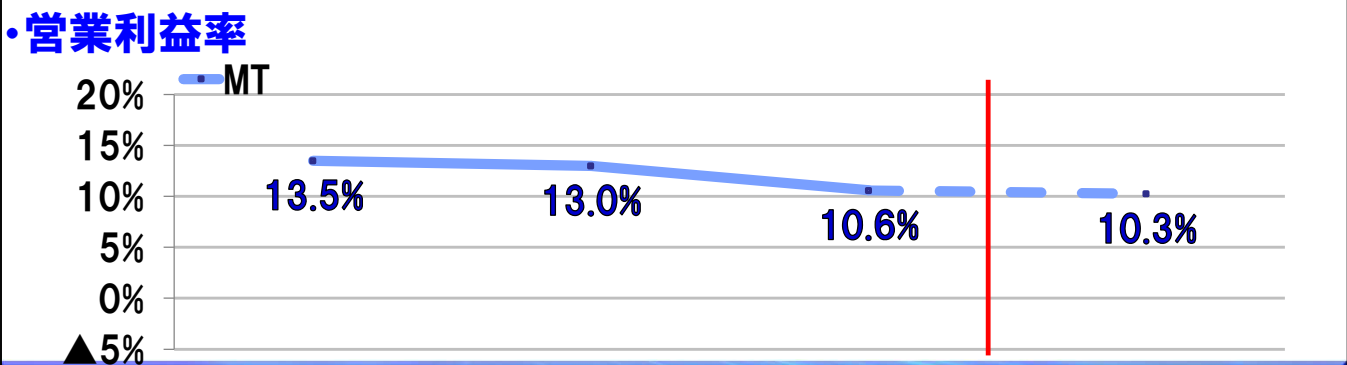
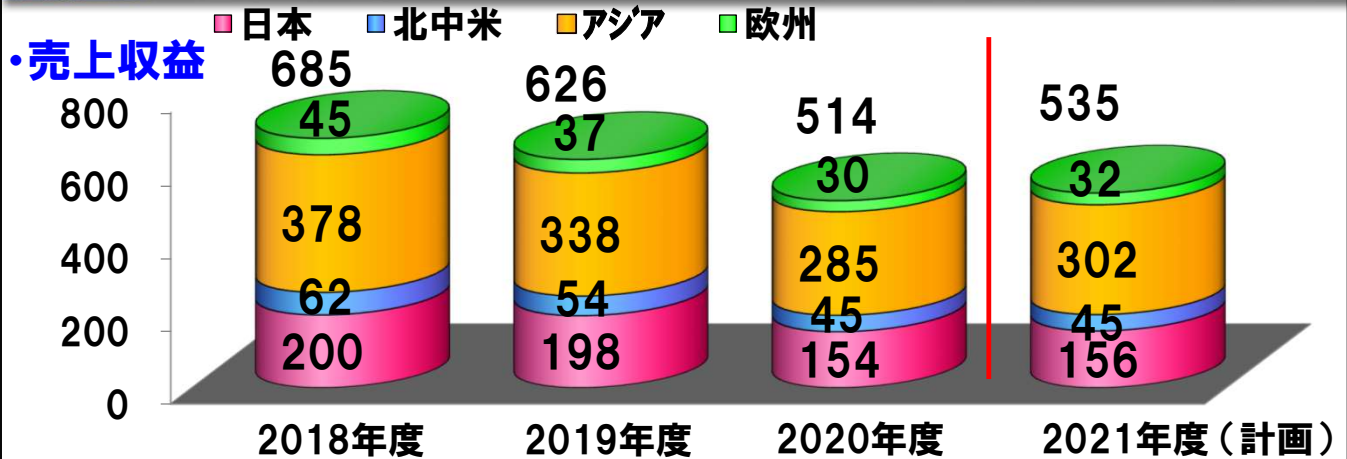
2020年度にはコロナウィルス感染症の影響で売上が減少しました。

それに加え、主要顧客であるFORD向の受注台数が大幅に減少し、今後短期間では回復の見込みがないと判断したことから、生産設備について47億円の減損損失を計上しました。

2021年度にはFORD向の受注減少により売上収益はほとんど回復せず、減損損失の計上による減価償却費の減少はあるものの、営業赤字となる見込みです。



売上収益変動内訳 MT



【売上収益変動内訳 MT】

MT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものでございます。

2020年度においてはコロナウィルス感染症の影響により、全ての地域で売上収益が減少しました。

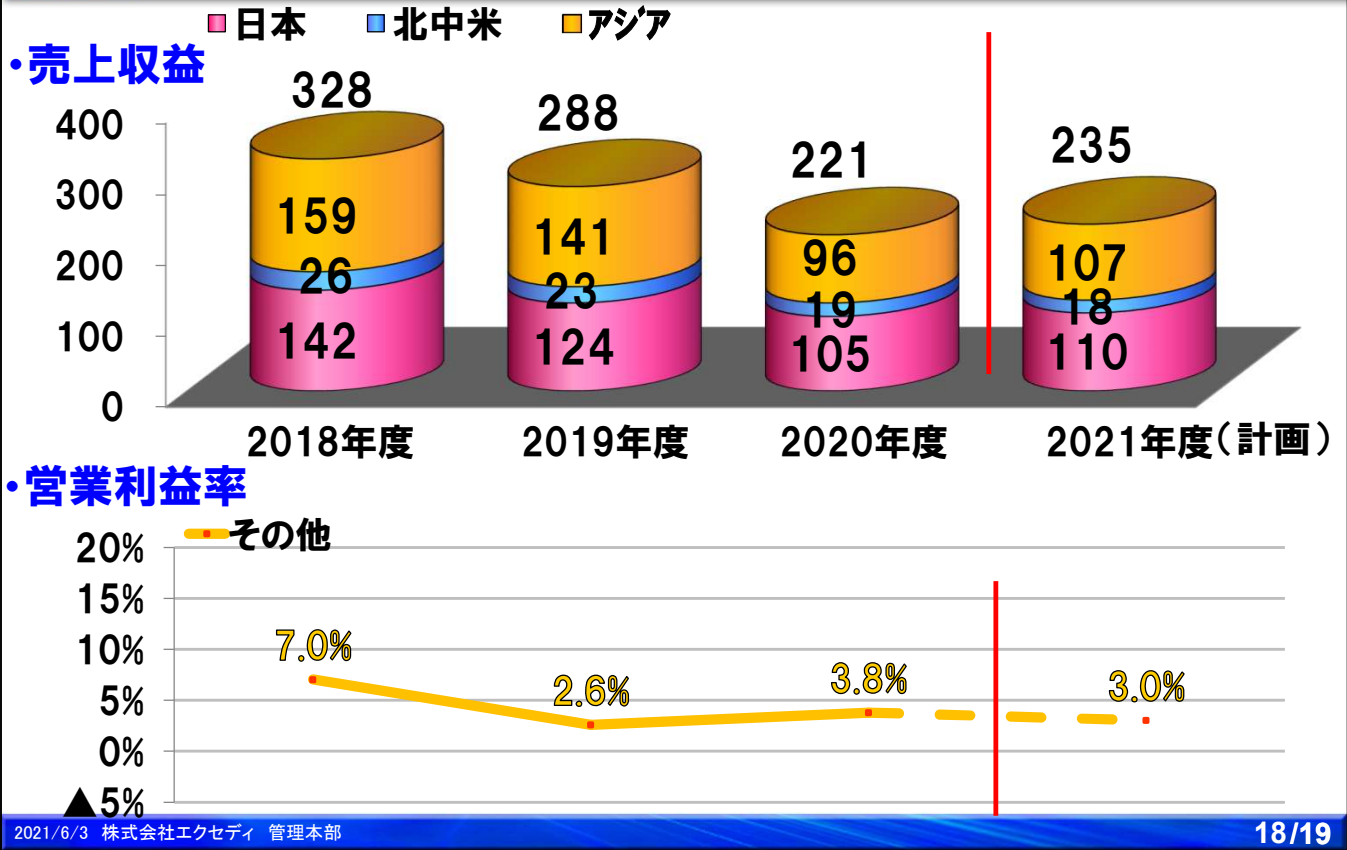
2021年度においては、2020年度からの回復はあるものの、それほど売上収益は増えないと見込んでおります。

なお、別資料にて弊社社長の久川が説明した台数見込では各地とも受注台数が増加するようになっておりますが、上記売上収益の見込みは、その台数前提に対して、アジアでの主要市場であるインドにおいてコロナウィルス変異株が猛威を振るっている状況、および半導体不足による完成車メーカーの生産計画へのマイナス影響などを考慮した保守的な数値となっております。

利益面においては、売上がそれほど増えないことに加えて、補修品の販売子会社の在庫が増加に転じることから未実現利益の消去が利益を減らす方向に効いてくることなどにより、営業利益率は若干低下して10.3%と見込んでおります。



売上収益変動内訳 その他



【売上収益変動内訳 その他】

その他事業セグメントの売上収益を地域別に見たものでございます。

2020年度においてはコロナウィルス感染症の影響により、全ての地域で売上収益が減少しました。

2021年度においては、北中米以外においては売上収益の回復が見られるものの、その回復幅はそれほど大きくないと想定しております。

利益面に関しては、売上収益の増加が若干であることに加え、素材価格の高騰等の影響が見込まれることから、営業利益率は3.0%へ低下するものと見込んでおります。

ご清聴ありがとうございました。



以上、2020年度の決算概要、および2021年度の見込についてご説明申し上げました。
ありがとうございました。

なお、本資料以外にも下記の資料を公開しておりますので、ご覧ください。

- ・ 2020年度決算報告：弊社社長の久川より、中期的な数量見込や長期的な取り組み内容などについてご説明申し上げます。
- ・ EXEDY NOW : 連結・単体の財務諸表やグループ各社の財務数値などを記載したデータブックでございます。